

日本の機窓から(4), 富士・箱根

＜須藤 茂¹⁾＞

写真の説明の後のカッコ内に、路線名と撮影月を付けました。



図1 位置図.

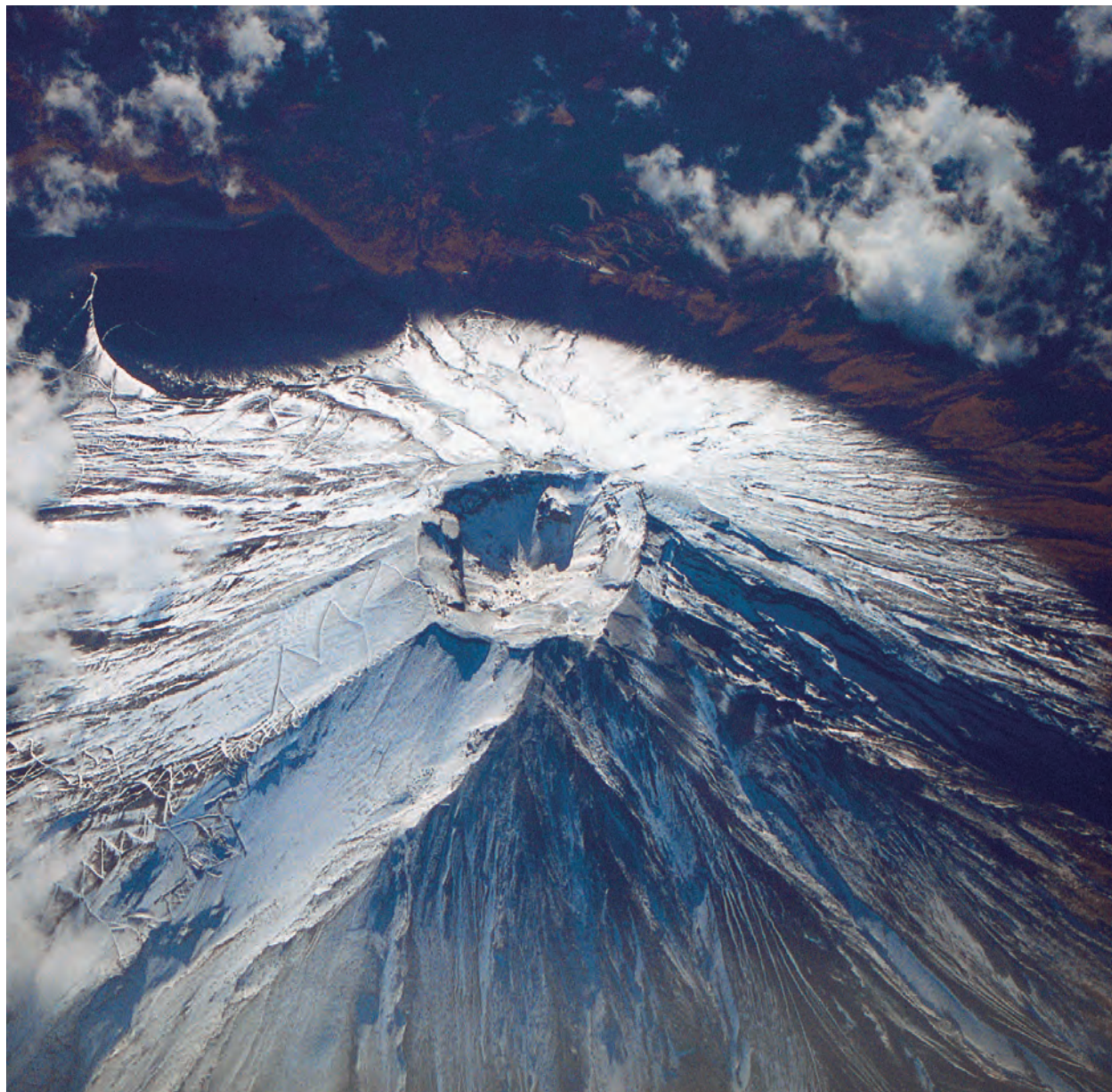


写真1 北方直近から見た富士。(羽田-山口, 11月)

富士山で調査中に上空を見上げると、ずいぶん山に近いところを飛ぶ飛行機があるなど感じることがあります。そんなとき、飛行機からはこんな風に見えるのかと後でわかりました。火口壁右上が最高峰剣ヶ峰(3,775.6m)、左上端が宝永火口です。



写真2 北方から見た富士。(羽田-長崎, 2月)
南東斜面の宝永火口から二ツ塚(左上端)にかけては雪がいつも多く残っています。当所の山体変動観測点のいくつかは、この気象条件などが厳しい斜面に設置されています。



写真3 窓枠を入れて見た富士。(羽田-長崎, 11月)
北側を飛ぶ場合は、こんな感じですがすぐ下に見えるので、左窓側の、翼の上でない席に座る必要があります。



写真5 ある夏の日の富士(午前)。(羽田-高松, 8月)
手前、富士吉田からのスパルライン側の登山者の元気の良い掛け声が聞こえてきそうです。向こう、富士宮からのスカイライン側はガスの中のボヤキでしょう。



写真4 遠くから見た富士。(福岡-札幌, 11月)
日本海上空から見えています。手前は越中宮崎, 中央上は北アルプス, 最上部のシルエットが富士山です。200 km以上離れています。

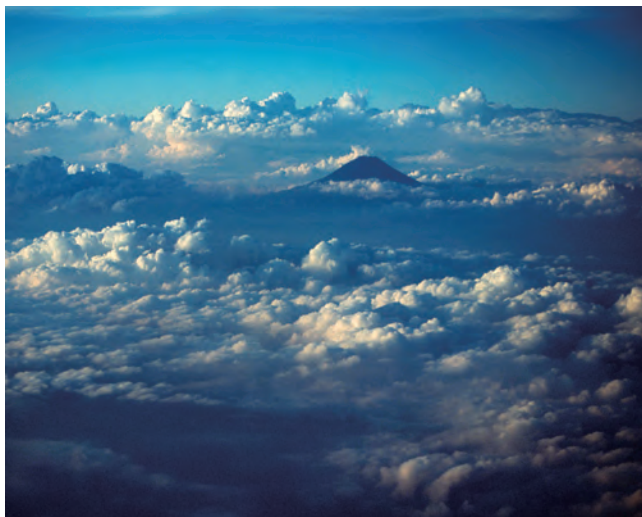


写真6 ある夏の日の富士(午後)。(高松-羽田, 8月)
写真5と同じ日の夕方, 南北どちら側も頭は雲の上に出ていました。



写真7 ある秋の夕方の富士(その1)。(名古屋-成田, 10月)
手前が伊豆の山々, 左後に八ヶ岳が, 墨絵の世界です。

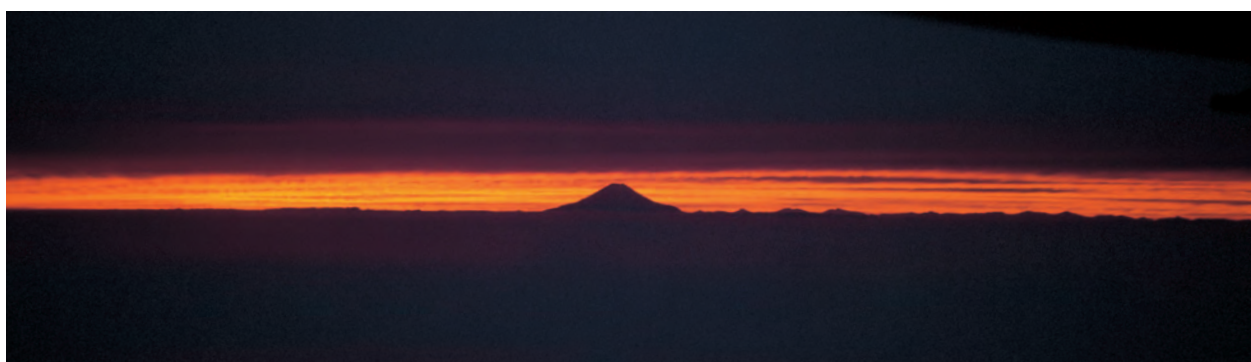


写真8 ある秋の夕方の富士(その2)。(名古屋-成田, 10月)
写真7のすぐ後, 夕焼けが広がりました。あっという間の出来事でした。



写真9 ハザードマップが必要な理由。(羽田-伊丹, 2月)
手前右は田子の浦, 工業地帯が広がります。東西を結ぶ交通の要所でもあります。富士山からは遠いですが, 遮るものはありません。



写真10 背比べ(長崎-羽田, 1月)
右から富士山, 八ヶ岳, 南アルプス, 中央アルプスと北アルプス。手前は大井川。



写真11 汚しているのは、わ・た・し。(羽田-札幌, 2月)

きれいな富士山に汚い排気。エンジンよりも後に座るとよくわかります。景色がゆがんで見えるのは熱のせいかもしれませんが。



写真12 箱根はカルデラ? (羽田-伊丹, 11月)

周りを取り囲むのが外輪山, 中央左上から神山, 駒ヶ岳, 二子山などのカルデラ形成後の中央火口丘が見えています。大きなカルデラ“凹み(落ち込み)”は、できなかったのではないかという意見もあります。